

「森銑三刈谷の会」だより No. 13

発行 2022年10月15日（月刊・メール投稿歓迎）

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会

例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

No.	媒体	見出し	特徴的記述
1	朝日 (1985/3/8: 朝刊)	面数不詳, 名古屋版? (23)東京本社版	近世人物研究 在野の歴史家 森銑三氏死去
1a		在野の歴史家 近世史に新説 森銑三氏が死去	村上忠順旧蔵書の整理(1)、歴史家としての名声を確立した(2)。芳賀徹・東大教授の話(談話)。 [芳賀徹談話を含め記事1とほぼ同文。ただ紙面の都合か(1)(2)を欠くなどやや簡略となっている。(鈴木)]
2	中日 (1985/3/8:23, 朝刊)	西鶴研究の森銑三氏死去	晩年は古書店の“客員社員”で通ず、(西鶴研究で)ユニークな新説を発表したがアカデミズムからは黙殺された、永井荷風からは「本当の学者だ」と。
3	毎日 (1985/3/8:23, 朝刊)	「西鶴」で新説の書誌学者 森銑三さん死去	井原西鶴の浮世草子は「好色一代男」だけ、という新説で知られた在野の書誌学者、学会にショックを与えた、永井荷風が「森さんこそ真の学者」。
3b	朝日 (1985/3/8:1, 夕刊) 東京本社	素粒子	この碩(せき)学を、教授に迎えなかった官学の偏狭。植物の牧野[富太郎]博士、歴史の森銑三氏。(全文、紙面3行)
4	中日 (1985/3/9:1, 朝刊)	中日春秋	「子なし、金なし、学歴なし、老いてゐるのは闘志だけ」と「本の虫」に徹した一生、愛知・刈谷の図書館、(西鶴)学会からは「アマチュア説」として黙殺。
5	朝日 (1985/3/12:5, 夕刊) 東京本社	佐伯彰一「森銑三氏を悼む」	書物に親しむこと以外に、何の楽しみも求めようとしなかった、下づみ人間のウラムミツラミの爆発とは決してならなかった、声を高めず、荒げることなく。

第13回 (2022/9/17) 「森銑三計報新聞記事」(鈴木哲)参加11人

森銑三計報新聞記事(表)を11人で読んだ。安達さんが初めて会に参加下さった。6日前の刈谷市郷土文化研究会談話会 神谷磨利子「森銑三刈谷の会の活動1年」(参加34人)が契機となった。

村上忠順旧蔵書整理を記すのは朝日(1985/3/8)名古屋版である。同東京本社版では「名声を確立した」が削られている。中日(1985/3/8:23)の「古書店」は反町茂雄「弘文荘」である。永井荷風の「本当の学者だ」は中日と毎日(1985/3/8:23)が伝えている。出典は相磯凌霜(1970)「荷風先生と森さん」『森銑三著作集』1「月報1」pp. 1-2と考えられる。荷風『断腸亭日乗』には銑三の名が見える。井原西鶴「好色一代男」一作説は、毎日が「学会にショックを」とするが、中日は「黙殺」とする。

朝日(1985/3/12:5, 夕)佐伯彰一「森銑三氏を悼む」を味読した。「声を高めず、荒げることなく」などは銑三の人柄を表しているとの感想が挙がった。

37年前記事に記憶ある人も見え、朝日「素粒子」への発言もあった。朝日(1985/3/8:1, 夕) [3b]「この碩(せき)学を、教授に迎えなかった官学の偏狭」である。刈谷ホームニュース(1995/10/7:2)「近世人物研究に偉大な業績 生誕100年記念で展示会」に兵藤さんが朝日から引用している(第5回資料)。

当日は天候不順で参加者は多くはなかったが、参加者すべてから発言があった。原文を読み、意見を出し合うことによる学びを感じた。(哲)

話し合いから

朝日(1985/3/12:夕)佐伯彰一の追悼文に、銑三の計報に接した佐伯は、著作集第12巻と『古い雑誌から』『近世人物夜話』の三冊を棚から取り出したとある。「森銑三刈谷の会」ではすでにこの三冊に関連のある事項を取り上げて来た。著作集第12巻の「回想」中の文章で、刈谷町立図書館で村上文庫整理の仕事に携わっていたことを読んだ(第2回)。「古い雑誌から」の口絵肖像写真は早稲田大学教育学部で「書誌学」を講じていた頃のもので(第10回)、『近世人物夜話』「渡辺崋山の生活」「椿椿山」は渡邊崋山の話の中にあつた(第8回)。

森銑三の肩書が「在野の歴史家」(朝日)、「近世学芸史研究家」「在野の書誌学研究家」「在野の史家」(中日)「在野の書誌学者、近世学芸史研究家」(毎日)等とあることに注目が集まった。勉強会が進み、それぞれの森銑三像ができてくると良いと思う。「計報記事で、その人の評価が分かる気がする。森銑三さんはかなり高い評価を受けていたことが良く分かった」「官学と離れた森さんが新聞記事にこのように大きく扱われていることから世間の評価が分かった」と感想が出た。(神谷磨利子)

今後予定

14 2022/10/15(土) 『帝国民』編集者時代の森銑三

15 2022/11/19(土)「高崎南小学校代用教員時代の森銑三」(長嶋秀雄)

お願い どなたでもご関心のあるテーマについてお話しくださるようお願いいたします。お申しつけください。